

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1072700493		
法人名	たくみ株式会社		
事業所名	グループホームベルジ川場たやの家		
所在地	群馬県利根郡川場村生品1823-1		
自己評価作成日	平成29年10月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.takumikk.co.jp/tayanoie/kawaba
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号
訪問調査日	平成29年11月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の農園を活用し、苗植えや収穫を入居者様と一緒にやって行っています。日常生活の中で、散歩を取り入れ、野菜の成長を観察したり、収穫したりして入居者様と喜びや楽しみを一緒に味わっている。また、個別での外出行事を行い自宅まで一緒に出掛けたりする事をしたり、複数での外出行事として近隣の公園や顔なじみのぶどう園に出かけたりもしている。入居者様の作った作品を文化祭等にも出展したりもしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

共用空間をはじめ館内は整理整頓が行きわたり、気になる臭いもなく清潔な環境づくりがされている。また居室は、ひとりの時間を有意義に過ごせるよう趣味の道具を揃えたり、生活しやすい工夫をしている様子がうかがえる。自立度が高い利用者が多く、自宅や希望の場所に外出したり、外食や地域住民との交流の機会を増やし、事業所の外での活動を楽しんでもらえるよう取り組んでいる。介護計画の作成では、モニタリング・担当者会議を行い、利用者・家族の意見を反映させた支援計画を立て、職員が統一した支援を実施していくという根拠づくりに努めている。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念5項目を掲げて、朝礼時や会議、業務の中で確認しあい、共有を図っている。	管理者は、職員に理念の内容を分かりやすく説明し、意識して業務に当たれるように努めている。朝礼や会議でも、互いに気づき改善できる働きかけをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の祭りや文化祭、老人会主催の行事に積極的に参加し、交流を図っている。文化祭には、作品を作り、出展している。	地域住民との交流の楽しさを感じてもらえる取り組みに努めている。保育園の運動会に招待されたり、老人会企画の芋の苗植えや収穫にも参加している。事業所の食事会での交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	食事会など施設行事に老人会の方々を招待し、認知症の方と接し、会話したりしている。また、運営推進会議等で、取り組みなどを地域の方に報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に行い、事業所から活動内容の報告を行い、参加者の方から意見や要望を聞いている。その意見や要望を施設運営に取り入れている。	2か月ごとに開催している。意見交換の他に、事業所の報告や取り組みをまとめた事例紹介も行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	サービス内容で不明な点があれば、その都度、担当者に電話で確認したり、市町村担当者の所に行き確認をして、助言や指導を受け、サービスの質の向上に取り組んでいる。	管理者は必要な事を相談するために行政窓口に出かけたり電話をしている。行政主催の研修会や他施設での研修にも参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員へ身体拘束による弊害を説明し、取り組んでいる。建物の構造上2階に位置しており、入り口ドアを施錠しない時間帯を作るなどのケアに取り組んでいる。	状況により2階の出入り口を開錠する時間もある。職員は声掛けや出入り口に丸椅子を置き確認合っている。身体拘束委員会が言葉の拘束の研修を行っている。職員の行動に対する利用者の感じ方に配慮し注意しあえるよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会で、スピーチロックや虐待についての施設内研修を開催したり、グループ内の研修に参加したりして、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や後見人制度について、研修等で学ぶ機会はあるが、理解と活用には乏しい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学時や契約時等に説明すると共に、日々相談された際は、随時説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加して頂き、意見や要望を伺い、運営に反映させている。また、担当者会議等で、ご家族様に日頃の状態を説明し、意見や要望を確認している。	家族には写真付きの便りを発行し、受診結果や変化もこまめに報告している。面会時や担当者会議で意見を確認している。利用者には質問形式で趣向や外出希望を聞き確認している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な会議を開催し、職員の意見や提案を取り入れている。朝礼時にも、報告するだけでなく、意見を求められるよう取り組んでいる。	職員の働きやすい環境づくりに努めている。利用者がのびのび過ごせるよう、外出等の企画を日常的に提案してもらっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設内外の研修への参加や資格取得に向けた支援を行っている。毎月、個人の目標に対する評価を記載してもらい、管理者からの助言や指導を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員教育として、研修センター主催の研修や施設内での研修を積極的に参加、開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設に行事参加の招待をし、一緒に行事を行ったり、研修を通じてサービスの質の向上に努めている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の方との普段の会話の中で、希望や要望などを聞き取り、受け止め援助している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話等で状態報告を行っている。その会話の中で、要望や心配事を確認したりしている。報告を定期的に行うことで、話しやすい環境が築けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談や担当者会議時、ご家族様等の情報や関係者からの情報を把握しておき、柔軟な対応・早めの対応ができるよう、心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様がしたい事を一緒に行き、会話や作業から共に学びあい生活をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出や外泊は自由であり、ご家族様と一緒に過ごす時間を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様に限らず、友人や知人などの面会もあり、馴染みのある方との交流も図れている。	家族、職場の同僚、知人との関係継続や馴染みの店に出かけたり、畑の除草剤まきや必要な物を取りに自宅へも外出している。生活習慣(新聞の購読・嗜好品等)も大事にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	農園での作物収穫や下ごしらえ等、共有スペースであるホールや農園で、一緒になって作業できる時間を作り支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、介護に関するご相談や支援を行ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を確認し、ご家族様にも協力をして頂く事で、買い物や自宅までの外出、外泊も実現できている。	食いたい物や行きたい場所、入浴や散歩等、日頃から本人に聞きながら支援に生かすことで、生活の楽しみを見つけてもらえるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族様、ケアマネージャーから情報を聞いたりし、確認している。趣味や特技において、今でもできる事があれば、取り入れ支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の現在行っている事をすべてリハビリとして考え、自分で行える事はして頂けるよう援助している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や本人等の意見や要望を踏まえ介護計画を作成している。カンファレンスや担当者会議を定期的開催し、現状の把握と今後の支援内容について話し合っている。	本人・家族の意向をふまえ、毎月モニタリングを行い、モニタリングを基に、担当者会議で職員が共有し、3カ月ごと又は状態の変化時に介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の経過記録に、生活上の様子や体調面の変化を具体的に記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、後見人制度などのサービス利用についての相談や支援ができるよう取り組んでいきたい。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議をきっかけに民生委員との交流も増え、地域行事への参加時など協力をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医については、家族や本人の希望を尊重している。受診の際、家族の協力を得たり、ホーム職員が対応したりして、定期的に受診や往診を受けられている。	受診方法の希望は利用開始時に説明している。かかりつけ医と専門医の受診は家族同伴を基本としており、協力医が往診(月1～2回)している。村内にある歯科への受診や訪問歯科往診も支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者のバイタルや表情、様子の違いなど、随時変化に気づいた際は、看護職員に相談し、受診や医師への上申の必要性を判断したり、医療機関への受診付き添い等を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中、定期的に様子を確認しに行き、状態把握に努めている。また、病院関係者(地域連携室)とも随時連携を図り、入院中の様子を確認したりして、早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の方針を契約時に説明している。事例はないが、状態変化に応じて、家族や病院と話し合いを随時行いながら、支援している。	看取りの支援も可能であるが、最終的判断は主治医が行い、入院となる事が多い。家族から「入院したら戻れないのでは」という心配の声もあり、事業所の方針を説明し話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの確認や研修への参加により、職員の知識や技術向上に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練の実施や非常災害食提供など災害対策に取り組んでいる。	夜間想定(消防署立ち会い)と昼間想定との総合訓練を行っている。地域特有の予想される災害時マニュアルについて、系列の施設では検討している。	避難誘導等の自主訓練の実施をお願いしたい。予想される災害時マニュアル作成の検討にも、加わってはいかがか。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや声かけ、態度、接遇など、日頃の朝礼等で適切な対応ができるよう指導している。	利用者の立場になり、職員は声掛けやため息にも配慮する様指導している。職員、利用者同志の相性も考慮している。のびのびとした楽しみのある生活が送れる様心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の言葉を傾聴し、入居者に選んで頂いたりする機会をつくり対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の方が自分のペースで生活できるよう見守り、本を読まれたり、買い物に行かれたりする時間を大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容師により、2ヶ月に1回希望者は散髪を行っている。入浴後の着替えや外出時の服装など、自分で選択できる方には確認し、準備等の支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の方と一緒に、食事やおやつを作る時間を設けて行っている。農園で収穫した野菜等を使用して一品メニューに加えたりしている。	メニューは業者委託をしており、要望意見は電話で伝えている。食事時間や場所等の制限はせず自由である。月に2回は手作りおやつを提供している。お茶はメニューを用意し、選んでもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の記録があり、個々の摂取量を把握している。好みに応じて、飲み物を変えたりして対応している。希望に応じて、昔から好きだった食品を用意し提供している方もいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促している。自分のできる方は、自分でして頂き、介助が必要な方には手伝い、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的な声かけや誘導を行っている。尿量に応じた排泄物品の工夫を行っている。	自立している利用者もいる。定時の声掛けや誘導確認を行っている。パット等排泄用品は、コストと品質を考慮して提供している。夜間のみポータブルを使用する利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員全員が便秘の原因などを理解できており、入居者の状態を考慮しながら、運動や食事工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個人のご希望や身体状況に応じて、対応している。体調に応じて、シャワー浴や陰部洗浄、更衣援助を随時行っている。	毎日入浴できる準備はしており、基本週2回の入浴支援となっている。ひとりで入浴する利用者への見守り、拒否の場合の対応、同性介助についての説明、職員との相性など配慮に努めている。	入浴を楽しみにしている利用者には、基本の回数にとられず、毎日入浴の声掛けをしたり希望に応じて支援していく事を介護計画に盛り込んでみてはいかか。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	照明の明るさや室温など、個人の希望や生活習慣を考慮して対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の説明や薬局からの情報を把握して、服薬援助を行っている。薬情を確認し、服薬の目的や副作用なども理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割意識を持ち、個々に合わせ家事や畑仕事、カラオケ等を実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や畑での農作業などを随時行っている。ドライブや外食などの外出行事も企画し対応している。	日常的に散歩や畑に出かけている。買物や外食に出かけたり、家族と一緒に外出したり、外泊に出かけ、楽しんでいる利用者もいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる入居者様は、自己管理し隣のお店で買い物をするなどの支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	友人やご家族様など電話がかかってきた際は、ご本人を電話のある場所までお連れし会話をしている。また、電話をかけたいと訴えられた際は、電話をかける等の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた花を植えたり、飾りを飾ったりし、季節感を味わって頂いている。	明るく清潔で、不快な臭いもなく、整理整頓が行きわたり混乱しない環境である。利用者が作成した作品や行事の際の写真、季節の飾りつけなどが掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペース(ホール)は自由に行き来でき、他の入居者様と会話やレクリエーション、読書などができる場として提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室への持ち込みは自由であり、入居時に馴染みの物を持ってきて頂ける事で、本人が安心して生活ができる事を説明し、準備して頂いている。	畳の居室もあり、それぞれの状況や好みに合わせた居室となっている。テレビやタンス等馴染みの家具の他に趣味の道具や植物も置かれており、個性が感じられる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様のできる事などを職員が把握し、安全面に配慮しながら裁縫作業等も支援している。		